

5 地域公共交通を取り巻く現状と課題

5.1 日高地域の公共交通の現状

「2 地域の概況」、「3 地域公共交通の現状」及び「4 地域の移動特性・ニーズ」を踏まえ、「日高地域の公共交通の現状と問題点」を整理すると以下のとおりとなります。

(1) 日高地域の概況

【人口の減少】

・2020(令和 2)年時点の総人口は 63,372 人で、今後も減少傾向が続くものと予想されます。
(P20 参照)

【全道平均よりも高い高齢化率】

・高齢化率は 2020(令和 2)年時点で全道平均よりも 3 ポイント高い 35.3%となっており、今後も全道平均より早い速度で高齢化が進行するものと予想されます。
(P19 参照)

【集積している生活利便施設等】

・地域人口の 34%を有する新ひだか町と、19%を有する浦河町が国庫補助制度における広域行政圏の中心市町村として位置づけられています。
・他市町への高校通学は、日高町と平取町の生徒が苫小牧市へ、日高町と新冠町の生徒が新ひだか町へ、様似町の生徒が浦河町への通学が多い状況となっています。
(P25 参照)
・多くの病床を持つ病院や比較的規模が大きいスーパー及び金融機関は、新ひだか町、浦河町及び日高町門別地区に集積しています。
(P22～P24 参照)

【多くの観光客が来訪】

・地域内には、桜並木鑑賞やホーストレッキングなどの乗馬体験、アイヌ文化の伝承、貴重な高山植物群落を有するアポイ岳ユネスコ世界ジオパーク登山、襟裳岬などを目的地として、道内外から多くの観光客が訪れています。
(P26～P27 参照)

【日高山脈襟裳国定公園の国立公園化】

・日高山脈襟裳国定公園が国立公園となることで、多様で貴重な自然風景や環境が保護されるとともに、地域の知名度やブランドイメージの向上、地元住民の環境意識の高まりや子どもたちの学びの場、さらに来訪者の増加による地域経済の活性化といったことが期待されます。
(P27 参照)

【乗用車保有率の増加】

・乗用車保有台数は 42,000 台前後で横ばいに推移しており、人口当たり保有率は増加傾向にあります。
(P28 参照)

【横ばいに推移する免許返納者数】

・運転免許自主返納者数は、2020(令和 2)年以降は横ばいで推移しています。
(P29 参照)



【自動車道路網の発達】

- ・日高管内は北西部が日高町門別地区、平取町及び日高町日高地区により、内陸側に奥行きのある地形となっていますが、日高町門別地区よりも南東の地域においては、太平洋岸の沿岸地域の国道 235 号、国道 336 号の沿道地域を中心に市街地が発達しています。
- ・高規格道路「日高自動車道」は、2018(平成 30)年に日高門別 IC～日高厚賀 IC 間が開通しており、2025(令和 7)年度には新冠 IC(仮称)までの開通が予定されているなど、整備・延伸により、高速自動車道路網が発達していきます。(P17 参照)

